

令和元年度 第2回花緑検討小委員会 議事録

- 1 日 時 令和元年10月31日(木) 10:00~11:30
- 2 場 所 兵庫県庁第3号館6階第6委員会室
- 3 出席者 岡委員、中野委員、平田委員長、森川委員、山田委員
- 4 内 容

- (1) 県民まちなみ緑化事業の評価・検証 報告書(案)について
- (2) 事業実施者向けアンケート調査内容について

【事務局より説明】

- (1) 資料2~6により説明
- (2) 資料7により説明

【委員からの意見等】

(委 員) 今日の議題である県民まちなみ緑化事業の評価検証について、それらをまとめた報告書案と事業者向けアンケートの内容をご説明いただいた。報告書については、目次に沿って内容が大分まとまってきており、全体像がご理解いただけるのではないかと思うが、内容についてご意見をいただきたい。今後実施予定のアンケートについても、このような構成でよいかチェックいただき、委員の皆様からご意見をいただきたい。

ただいまの説明について、ご意見、ご質問等があればよろしく願います。

(委 員) 資料6、13~14ページのサーモグラフィ調査について、いくつか修正をお願いしたい。13ページのひろばの芝生化について、温度差が13度となっているが、差はもっと大きいので写真に沿ったデータに直してもらいたい。非緑化箇所と緑化箇所の温度も間違っているので修正すること。

また、14ページの駐車場の芝生化も温度が違うので、画像に合った温度に修正をお願いしたい。実施箇所も西宮市の中学校となっているが、正しくは宝塚市の小学校であるので修正をお願いする。

(委 員) 修正をよろしく願います。その他意見はあるか。

(委 員) 資料6の23ページ、2-3防災効果について、今、地球温暖化などの影響もあり千葉県やその他のところで自然災害が顕在化しており、今後も増えることが予想される。これまで、花緑等の緑化による心理的効果や木陰をつくったり砂埃を防ぐという効果が強調されてきたが、自然災害に対してダイレクトに貢献できるという効果も書いたほうがよい。

日本全体がそうであるが、兵庫県も急傾斜地が多い中、屋上緑化や芝生による緑化等により平地を効果的に利用して、僅かではあるが貯留浸透機能を高めている。

国民や県民の自然災害に対する不安が非常に高まっているので、このような当たり前のことをきちんと言葉で表し、県民まちなみ緑化事業が自然災害へのリスク軽減に少しでも貢献していることをもっとはっきり書くほうがよい。インフラではないので大きな効果ではないかもしれないが、書き過ぎない程度に言葉で表現しておくほうがよい。

また、30ページ、3-5地域核の創出にシビックプライドの記載があるが、近年の環境系の報告書などには必ず地域特性というキーワードが出てくる。この川西市の事例も地域特性に気づく非常に大きなインパクトになっていると思われるので、人工的なまちの中で住民がその地域の特性に気づく大きなきっかけになっているという「地域特性」という言葉を入れたほうがよい。27ページ、3-1環境学習効果とも関連するが、住民がその地域の歴史的なストーリーに気づくというキーワードも入れると県民まちなみ緑化事業以外の事業を行う際にもそのことに敏感に反応してもらえるのではないかと感じた。

36ページ、5-1事業メニュー別波及効果の特徴では、緑化のイメージが快適性や癒しといったポジティブなものに結びつくと思われがちのため、心理的な効果は高く評価されているが、防災効果の評価は低い。それは防災効果があることに気がついていないためであり、緑化が災害防止に役立っていることをもう少し強調した方が正しく評価されるのではないかと感じた。

(事務局) 試行的に行ったアンケートでも緑化により感じられる効果が一番少ないのが防災効果である。防災効果の意識づけではないが、住民の皆さんが取り組まれた緑化にはこのような効果があるということも記載したい。

(委員) 地域住民がその地域の自然や緑に携わったり関わることにより、地域のアイデンティティや特性に気がつき、それがシビックプライドに繋がっていくということかと思う。全国のような緑化活動に関わっている人から見ても兵庫県は活発な活動をしていると認識されており、この事業が非常に貢献している。

全国花のまちづくりコンクールの審査員をしているが、兵庫県は大臣表彰を受ける事例が多く、表彰を受けられる方はこの事業を活用していることが多い。これは地域のシビックプライドだけではなく兵庫の緑化活動は進んでいるという他の地域からの評判やイメージの形成に繋がっている。

個人的に淡路景観園芸学校で緑化活動を行うボランティアの育成に関わっており、その方々の受賞歴の統計を取っている。この事業を利用し全国レベルの表彰を受けた人が多いこともわかっており、全国的にみても兵庫のまちづくりイメージのブランディング向上に貢献しているといえる。データを取ったり調査ができるのであれば一度整理いただければと思う。

(事務局) ご指摘の件について、県内では大臣表彰だけでなく入選を含めると大変多くの団体が受賞されているが、第3期事業を実施された団体で大臣賞を受賞された方はいなかったため、簡単な記述にとどめている。これまで大臣賞を受賞された団体は、過去に県民まちなみ緑化事業や花苗の提供事業を利用されるなど、ほとんどの団体が何らかの緑化事業を活用いただいていることを把握している。なお、今年度

全国花のあるまちづくり大臣賞を受賞された淡路島のサンセット一宮花仲間は県民まちなみ緑化事業を実施しておらず、優秀賞を受賞されたパナソニック洲本園芸部は22年度に実施した。

(委員) 都市緑化のためにシステマテックに税を投入し、その結果を客観的に把握する兵庫県の取り組み自体が全国的にも先進的である。これまでは各県が個別に緑税を導入してきたが、これから森林環境税という全国レベルの税が導入され、今後、全国各地で取り組みが進むと効果検証をする時がくる。その時にこの評価検証が他府県から先進事例として活用してもらえないのではないか。

そういったことも見据え、このような取り組み自体が全国モデルであるという気持ちで取り組んでいただきたい。

(委員) 資料6、26ページ(3)建物倒壊防止・落下物飛散防止等効果について、確かにこのような事例はあるのかもしれないがかなりレアなケースであり、これを効果として挙げることには疑問がある。今、街路樹は倒れて道路を塞いだり、強風で煽られた枝が電線を切って停電になるなど、防災上の懸念から低くカットしたいという傾向がある。樹木には風を弱めるとか家を守る効果はあると思うので、書き方を検討したほうがよい。

また、住民の皆さんでやるのがこの事業の一つの特徴である。まちづくりの面でこの事業がどれだけ効果があったのかを表すことが大切であり、関わった人数やどのような方が参加したかが効果として大きいのではないかと思う。特に校庭の緑化はPTAの方が非常に関心を持ってやっていたので、そのようなことも評価に入れてもよいのではないか。

(事務局) 建物倒壊など使っているデータが古いこともあり、最近、特に地震によりブロック塀の倒壊への懸念が高まっていることから、ブロック塀の撤去と合わせて生垣に転換する動きがあることを取り上げ、記載した。

住民の方々の参画に関するご指摘については、県民まちなみ緑化事業の申請時には住民団体の人数を記載いただいているが、自治会が申請者の場合、地域住民全員の人数を書かれることがある。実際に緑化に関わっているのはその一部であり、実態が把握できていない。団体数で表現する等、別の方法を考えてみたいと思う。

(委員) 29 ページで人々の参加を促すコミュニティ形成効果が項目に掲げられている。そういったことも漏れなく記載しておくことだと思う。

(事務局) 緑化に関わる人数は前回もご指摘いただいたが、実態が把握し切れていない。次期もこの事業を継続するとなった場合、事業実施者からそのようなデータもとれないか検討したい。

(委員) 私の町でも地域の方が川沿いの緑化に取り組んでいるが、非常に好評であり、地域が主体的に行うという意味で大変効果が上がっていると感じている。さらに言えば、兵庫県が全国に誇る事業として中学校のトライやるウィークがある。この事

業と中学校との連携というものが加わってくると、もっとすごいものになるのではないかと思う。

公園の芝生化は地域住民や自治会がどのような要望をもっているか把握しておく必要がある。雑草まみれになるから芝生を植えて欲しいと思っているのか、もう少し頻繁に草刈りして欲しいと思っているのか、自分たちの地域の公園だから自分達が管理費を出さないと思っているのか。そうしたことが中途半端なまま、なぜ芝生化を進めていくのか疑問がある。

芝生を張るとすぐに根付くとイメージされているのか。いろいろな種類の芝生の種を地面に蒔くことを実験的にやってみたが、ただ種を蒔くだけで何もしなくても勝手に芝生が生えてきた。そのような方法であれば、取り組みやすいと思う。

都市部の緑化について、加古川市の姉妹都市であるブラジルのマリンガという街に何度か行ったことがあるが、日向がないぐらい街路樹が多い。ブラジルでも街路樹が最も多い街といわれており、街路樹もとことん植えれば相当涼しくなるということを暑いブラジルで実感した。

今、ナラ枯れが進んでおり、どんぐりの実がなくなっている。このような状況を改善するため、植樹をするなら同じナラ系の樹木でも強い樹種があれば、それを植樹していくこともよいのではないか。

ゴーヤに関しては、蚊を寄せ付けない効果もある。

(事務局) 中学校との連携には校長先生や教頭先生の意向もあり、植えた後の管理に関して中学校の先生方にも一定の労力が生じるということが現実問題としてある。実施に向けた声かけは引き続きを行うが、さらに踏み込んだ取り組みは今の学校の状況からすると難しいと思っている。

公園の芝生について、植えられた住民の方々にその後の管理をしていただくことになるが、今回話を聞いた豊岡の方は、せっかく公園の広場に芝生を植えたのだから絶対に枯らしてはいけないという、維持管理に過度にプレッシャーを感じている様子で申し訳ないと感じた。植えて終わりではなく植栽後の管理について覚悟を決めるというわけではないが、心得た住民の方であれば良好な生育が見込まれると思っている。

ブラジルの都市部の街路樹について、植栽帯のような適地で植えられるかという問題がある。道路際のポケットパーク的なところで植えることはできるかもしれないので、そうしたところでは緑陰を提供する緑化ができるということを知らせていければと思う。

ナラ枯れに対応する植樹については、住民団体の意向もあるため押し付けることはできないが、このような樹木を植えてみませんかと勧める方法はあると思う。

緑のカーテンに関して、ゴーヤは蚊を寄せ付けないことは知らなかったのよい情報をいただき感謝する。

(委員) 芝生化は大前提として、従前は草が生えているところではなく土が露出しているところを緑化することとしていた。

(事務局) 街路樹は道路管理者が維持管理を行うので、県民まちなみ緑化事業では例え

ば沿道敷地の緑化と街路樹の緑化を一体化させ、視界にたくさん緑が入るような工夫をしないかと働きかけたり、そこを地域に開放してくださることができればなおよいと思う。そのような場所がなくても、民地の緑と街路樹の緑があわさり視覚的な効果が増幅していくこともある。

県民まちなみ緑化事業は住民参画が基本線にあるので、いろいろな方々がいろいろな形で緑を増やしていくように進めていきたいと思っている。

(委員) 資料6の37ページ、事業メニュー別波及効果の具体事例①工場地帯で環境創造につながる緑地の創出は、実際、現地を見て非常に成功している事例だと聞いた。ただ、担当者の話を聞くと県民まちなみ緑化事業の補助額以上に企業側が負担して緑化している。補助金は全体の緑化の一部であるが、それをきっかけに周辺の企業や人々と緑のまちづくりが広がっていき、これだけ大きな動きになった。緑化の全てを県まちが負担しているのではないことをきちんと謳った方がよいと思う。これだけを見ると一つの企業だけに多額の補助金をつぎ込んで緑化しているような印象を受ける。そうではなく、県民まちなみ緑化事業が呼び水となり、それが波及してこれだけ立派な緑ができたということをしちんと説明した方がよい。

(委員) 資料6の30～31ページ、3-5 地域核の創出について、シビックプライド以外に生物多様性の確保にも関連するが、以前、伊丹市の生物多様性戦略に関わった際、外来種も全部抜いてしまえというほどの強い意見が出されるなど、全国的にも外来種が増えて困っているという実態がある。地域核の創出で紹介されている川西市の事例は奈良時代、平安時代から続く地域特性に合った在来種を守っていることにもなる。地域の特性に住民が気づき、県民まちなみ緑化事業を活用し地域の植物を植えて守っていくことは、外来種から在来種を守る対策にもなることを関連づけて書くほうがよい。

(事務局) 県民まちなみ緑化事業は外来種植物の植え替えを補助対象としているが、簡単な記述しかしていない。昔からある自然環境に適した植物を大切に保存し外来種の侵食から守っているという意識を高めることにも繋がるという記載も考えたい。

(委員) これまで効果面を中心に意見が出たが、40ページ以降の課題と今後の方向性について、これまでの総括を踏まえて事務局側からいくつか提案が挙がっている。これについてはいかがか。

(委員) 4つの項目のうち、後ろの3つはかなり具体的にやることが見えるが、最初の人口集中地区内での緑化の推進については、展開の方向性で様々な主体が参画できるような方策が必要と考えられると記載されているが、具体的に何をやるのかが見えない。何か腹案のようなものはあるのか。

(事務局) 今後内部で詰めていくが、緑被率の調査をした時に衛星写真上に反映できない小さな緑があるため、こうした地域を歩いて回ったところ、建物が建って詰まり植えるところが少ないと感じた。街路樹以外で民間の方々が植えている場所はどこか

と改めて見ると、道路と家の隙間にプランターを置いて樹木を植えている。皆さん工夫しながら植えており、植物を植えることが嫌いではないが、住民の方々が小さな区画で緑を増やしていくため当事業を活用するには住民団体を組んだり、植栽場所を確保しないといけないという問題がある。法人なら者が一つのため意思決定が早く自社の敷地に植えることもでき、企業イメージのアップにも繋がる可能性があるため、そこを支援する方法が考えられる。

現在行われている道路と家の間の隙間緑化を細かく拾っても緑被率の上昇には繋がらないが、視野の中に入る緑の量を増やしてまちの印象を改善することは、方法の一つとして考えている。

(委員) 例えば三宮の辺りは衛星写真で見たら緑被率は非常に低く、これを増やすことは難しいと思う。先ほど言われたように上空から見ると少ないが街中を歩けば緑は結構あるということで、緑被率は低いけど一定の緑視率はある。高密度市街地ではそういった形が最終的に行き着く姿じゃないかという気がする。

単に緑被率で評価するだけではなく、別の視点で、例えば緑視率のようなものを評価に入れてそれが向上するよう頑張りますとか、違う目標を掲げて緑化を推進した方が現実的ではないか。その辺りも検討していただければと思う。

(委員) 資料6の40ページ以降の内容の充実が次回の議論になると思うので、今日のご意見踏まえながら具体化してないところの充実をお願いします。

他の部分についてはいかがか。

(委員) 言い過ぎになってはいけないが4つの課題以外に5つ目として、例えば自然災害リスク対策ではなく災害リスクへの貢献ぐらいまでは言ってもよいのではないか。ヒートアイランド対策にしても貯留浸透機能にしても、直接的に自然災害リスクに貢献しているわけではないかもしれないが、貢献していることは確かである。全国的に自然災害への恐怖や不安が高まっている今、この事業は災害リスクに貢献しているという打ち出し方をして、その視点からも進めるべきであるというのは書きすぎか。

(事務局) 防災効果の項目で緑地面積の増加により保水機能が向上し、災害リスクの低減に繋がることを謳う。課題と今後の方向性の項目で緑化を促進するためにはどこに植えるかの検討が必要であることや植栽が減災にも寄与することを知ってもらえるような書き方を考えたい。

(委員) 保水効果のある緑化をより促進させるために新しい項目を立てるとか、そのような効果のある緑化を手厚く支援することが考えられるのであれば、今後の方向性に入ってくるのではないか。もし委員にアイデアがあれば、ぜひ、事務局に言っていただきたい。

(委員) 緑化には防災効果があるにも関わらず、災害への不安を抱えている住民の多くは心理的な効果しか知らない。少しの緑化でも防災に貢献し、災害の不安軽減に

繋がることに気づいてもらうことが大切である。

(事務局) 我々もその辺りのことを踏まえて事業を取り巻く環境、現在の状況のようなことを報告書の導入部分に書きかけていたが、まだきちんと整理できていなかったためお示ししなかった。

自然災害リスクへの貢献は第一義的には効果のところに記載すべきかと考えている。災害発生リスクは当然高まっており、事業を取り巻く状況に記載することもできるのではないかと今お話を伺って感じた。

(委員) 夏以降、大きな被害が伴う豪雨災害が続き、急速に国民の意識が変わっているのかもしれない。そうした変化がこの緑や環境に密接に結びついていることもあるので、是非、それらを踏まえた報告書にさせていただきたい。

そういう意味では防災、子育て支援や教育に対する関心が高まっている時期でもあり、これらは重要な政策課題として注目され続けるものだと思う。そのあたりの効果、それに対する効果の貢献がわかるような報告書にしていればよいと思う。

今ご指摘があったようにまだ幾分その施策や展開の方向性が具体性に欠けるところもあるため、今後、どういう施策を盛り込むかについてさらに検討を進めていただきたい。

資料7で事業実施者が実感する効果に関するアンケート項目を示しているが、何か意見はあるか。

(委員) アンケート回答者が、またか、しょっちゅうアンケートがくるなと思わないか。

(事務局) アンケートは事業が終わった後に1回行っている。今回、追加して送ることになりまだ2回程度であるので、またかとはならないと考えている。

(委員) アンケートは、例えば緑のパトロールの方が事業者のところへ行き、ヒアリングしながら行うのか。

(事務局) サンプル調査時は他の用務で実施者の方とお会いした時に趣旨をお話し、その場で書いていただいたが、次は郵送により行う。会話しながらではないため、アンケートの趣旨が伝わるよう表紙の記載を工夫する。

(委員) 回答数を確保するために、できるだけ手間をかけずに回答できるよう、かつ内容を熟知していただいた上で回答していただける工夫が必要である。

委員からアンケートの形式についてご意見はあるか。

(委員) 緑のパトロールの方が直接面談してやるのが一番確実だが、全部は無理だと思う。

(事務局) 事業件数としては全部で 600 件ほどあり、対面での実施は現実的ではない。

(委員) 緑のパトロールの方が日常業務の範囲でお会いできる事業者に関しては、お話ししながら回答いただくほうがよいと思う。

(委員) 事業と関係性の低いアンケート項目があると思う。例えば、駐車場の芝生化や屋上緑化は子どもに関する効果は項目として当てはまらない。サンプル調査のグラフを見てもその評価は低いが、もともと低いのではなく項目として当てはまらないからであり、理解を誤る恐れがあると思う。

どの質問項目も 8 割ぐらい当てはまればよいが、ほとんど当てはまらない内容があるのではないか。

(事務局) 事業メニューごとに効果の対象者が異なるというご指摘はごもっともだが、事業メニュー別の効果を比較するときには質問項目をそろえておく必要があり、このような形態とした。駐車場であれば子どもに関する項目など当然低くなる場所は出てくるので、注釈で補足説明しようと考えている。

(委員) 回答項目に入れるか、どのように書くかということだと思う。駐車場緑化の回答者は子どもの遊びの項目は関係がないためおそらくバツを入れるが、関係ないからバツをしたのか、効果がないからバツにしたのかがわかるようにしなければならぬ。関係ないからバツをしたのに効果がないと解釈されないよう工夫していただきたいというご指摘であったと思う。

(委員) 時間も近づいてきたので今日いただいたご意見を踏まえ、報告書のさらなる充実とアンケートの適切な実施をお願いしたい。